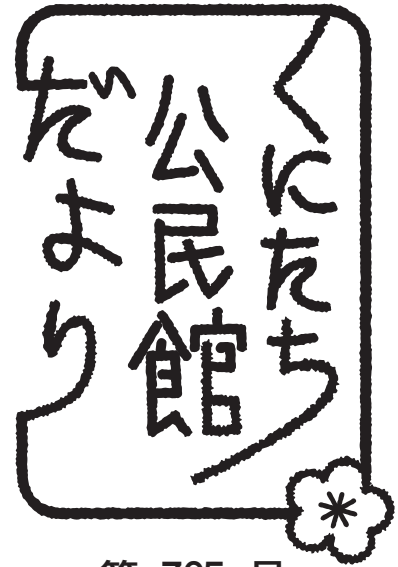


講座参加者の声

国立市公民館では年間を通してさまざまな主催講座を行っています。
今年6～7月に実施された講座に参加された方々に、感想を寄せていただきました。講座の雰囲気を味わっていただければと思います。



第 765 号

2023年11月5日
(令和5年)

「くにたち公民館だより」
ホームページのQRコード▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

今年7月に公民館で実施した食文化講座では、講師の小山伸二さん(辻調理師専門学校、書肆^{しよしき}粹)に、「おいしい」とはどういうことか、過去から現在までの食の歴史、日本列島の地理的条件と食文化の特性などにあたり、食文化にまつわる総論的なお話をさせていただきました。

あなたは何を「おいしい」と感じますか？

—〈食文化講座「食から世界を考える」を受講して〉—

佐藤 浩貴

「おいしい」とはどういうことなのか。この講座の受講案内にあったこの一文に、私ははつきりと答えることができなかった。人一倍食い意地が張っている私が日々あたりまえに口にする「おいしい」について、考えてみたいと思った。講座で出た話題は、食の歴史、地理、文化、芸術、政治など多岐にわたり、その情報量に圧倒された。思っていたよりも単純な話で

はなかったが、この講座参加者の声を読んでくださる方とそのごく一部を共有したい。「おいしい」は二つの領域の組み合わせからなる感覚だそうだが、それを食べる人である自分自身(食事体験や心理状態、思い出、文化など)。そもそも「おいしい味」というものは存在せず、



講師の小山伸二さん

「おいしい」が自分自身によるところが大きいというのは、言われてみれば当然だが、「確かに！」と膝を打った。

「おいしい」について考える時に参考になるのが、フランスで始まった「味覚教育」だ。これは「正しい・本物とされる味」を教えるものではない。食べ物を食べた人が、五感を総動員して食べ物から受ける印象を感じ取り、考え、表現して他者に伝える術を身につけるといふものだ。食べた本人が感じ取った「極めて主観的なこと」を、他者に伝えること、また、他者のそれを自分も傾聴することを通して、人は食べ物を能動的に「味わう」力を獲得する。

食べ物が入る口に入るまでに、どんな人が関わってくれたのか。どんな土地からやってきたのか。



「おいしい」とは食べ物そのものだけの話ではない

その調理法はどんなふう生まれただのか。どんな場所で、どんな時にどんな状況で食べたのか。「おいしい」を成立させている多くの要素を感じながら、世界とのつながりを感じながら食べ物を味わって生きているというのは、とても豊かなことだと思ふ。

ちなみに私が人生で最もおいしいと思ったのは、祖母の作ったおにぎりだ。大学進学で宮城の田舎から上京する日に、祖母が持たせてくれたおにぎりはアルミホイールに包まれて、大ぶりでズシッと重く、具は私が好きな塩つけの強い筋子。新幹線車内でおいしいおいしいと言って食べたあの味は、忘れられない。

(2023年7月15日開催)



「しょうがいのイメージは様々な形で作品に現れる」

私は現在、大学2年生です。大学では、古典などの文学に加えて、特別支援教育を学んでいます。今回の講座は、私が普段学んでいることが合わさった内容でしたので、参加してみたいと思いました。

「しょうがい」を考える

「一橋大学・院生講座「文化のなかの『しょうがい』」既存のイメージを超えて」を受講して〜

田中 陽海

公民館では、学びをととした大学と地域の交流を目的として一橋大学大学院言語社会研究科の院生を講師にした講座を定期的に開催しています。今年度6・7月に公民館で実施した「院生講座」では、寺沢恕さん(一橋大学大学院生)にお話いただき、文学や映画におけるしょうがいに関する描写を多様な視点から読み解き、作品に登場するしょうがい描写が人々や社会に与える影響について、ワークショップ形式で共に考えました。



講師の寺沢恕さん

今回の寺沢さんによる講座は、「しょうがい」とは何なのか、残されてきた文化表現の中からは、何がわかるのか、そのイメージや考えを深める機会となりました。第1回の寺沢さんのお話では、文学や映画の中のしょうがいを持った登場人物を紹介してください



「しょうがいのイメージは健常者目線に限るのか？」など鋭い質問が多くありました(右はコーディネーターの井上間從文さん)

ました。自分の想像するよりも多くの作品があったのだと驚くと共に、身近にある作品の中にも、様々な視野を広げて触れることができたなら、多くの学ぶことがあるのだと気が付きました。また、寺沢さんは「医療モデル」や「社会モデル」という言葉を用いて、「しょうがい」の濃淡が変わり得るのだと教えてくださりました。「しょうがい」が、社会の側にあるのだと考え、行動に移すことが大切だと知りました。例えば、学校で手話や点字の教育が行われ、それがひとつのコミュニケーション手段として、当たり前存在するようになればいいと考えました。私たちは、実際に当事者になれな

今月の公民館 (11月~12月)

- 11月9日(木)夜 ブッククラブ
今村夏子 『むらさきのスカートの女』
- 12日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう
「1コマアニメーション映像を撮ろう」
- 14日(火)朝~ 女性講座「女性のためのメンタルケア」
- 15日(水)昼 人権講座 ドキュメンタリー映画
『ある精肉店のはなし』上映会と
店主・北出新司さんのおはなし
- 29日(水)夜 図書室のつどい
「ファッションを彩る革製品の「裏側」」
- 12月16日(土)昼 多文化共生事業
「アイヌ民族の世界観と暮らし」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。

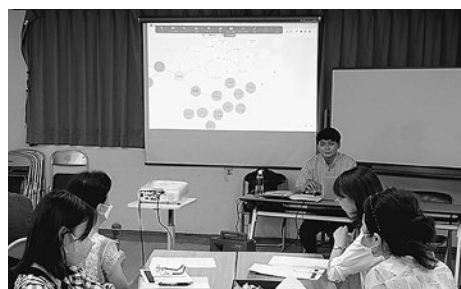


公民館の状況▲

公民館 ☎ (572) 5141

いとはいえず、想像力を最大限に働かせて、「しょうがい」を限りなく淡くする努力をしなくてはならないと思いました。それが独りよがりになってしまわないように、文化の中の「しょうがい」から重ねられた歴史を鑑みて、現代社会と照らし合わせていく必要があるのだと思われました。

第2回の『街へゆく電車』(山本周五郎「季節のない街」より)という作品について、意見交換する場では、大学の講義での話し合いの場よりも、多くの意見が出たと思います。さまざまな世代の方や、実際に足にしょうがいがある方などがいらっしやうって、普段はお話しさせていたただく機会のない



「街へゆく電車」でのしょうがいの描かれ方について、参加者同士で意見を交換しました

方々のご意見を伺うことができ、大変勉強になりました。このような機会を設けてくださり、ありがとうございました。(2023年6月18日・7月2日開催)

〈公民館職員不定期コラム〉
「公民館の窓」

「人権月間2023」に寄せて

11月10日(金)～12月10日(日)は、「くにたち人権月間2023」です。今年も国立市の関係課や多数の市民団体が参画して、多彩なイベントや講座が集中的に開催されます(詳細は10月20日号「市報くにたち」参照ください)。公民館でも毎年、このくにたち人権月間に参画して、人権をテーマにした映画会や講座などを開催しています。

とはいえ、「人権」というテーマは、公民館にとってはかねてより常に取り組んできた普遍的なテーマでもあります。人権月間に限らず、年間を通じて「人権」に関わるテーマを幅広く扱い、市民が学ぶ場づくりを継続して追究してきた歴史があります。

たとえば、今号の「講座参加者の声」で紹介された一橋大学大学院言語社会研究科と連携して行っている「院生講座」でも、優生思想や水俣病をテーマに、文化やメディアの観点から市民と学びあう連続講座を開催したことがあります。今年度は、映画や文学における「しょうがい」の描

かれ方をもとに、文化表現の中に現れる差別意識やしょうがいに対するまなごしを問う論点が議論されました。

このようにふり返ると、むしろ「人権」というテーマを掲げていなくても、「人権」の視点がすべての講座や学習活動に貫かれていくことが公民館のミッションともいえるのかもしれませんが。イベントや講座のテーマに「人権」と掲げてしまうことで、もともと「人権」に関心を持つ人しか参加しなくなってしまうこともあります。

そのように考えれば、テーマに掲げたときも掲げていないときも、私たちの依って立つべき足場には「人権」という視点を常に意識して、公民館の事業づくりや市民の学習支援、ひいては行政すべての仕事を進めていくことが求められているといえます。「くにたち人権月間2023」を機にこのことを再確認しながら、改めて「人権」について市民のみなさんと学びあいたいと思います。(K・I)

オンライン
受講可能

〈くにたち人権月間2023・図書室のつどい〉

ファッションを彩る革製品の“裏側” 「革づくり」の仕事と「ファッション倫理」の変容

お話 西村 祐子(駒澤大学)

流行の最先端をゆく高級バッグから一点モノの財布まで、革製品はファッションを彩る必需品です。他方、皮をなめす作業はケガレと見なされ、一般市民から忌避されてきた歴史もあり、皮革という素材は高級さと宗教的なタブー、忌避感などが同居しています。

今回は講師の西村さんのお話から、最先端のファッションや私たちの消費文化を通じて、皮革文化に関わる差別の歴史や自然破壊、動物愛護、大量廃棄といった倫理的な問題について考えたいと思います。

〈西村さんの本〉

『皮革とブランド—変化するファッション倫理—』(岩波新書)、『革をつくる人びと—被差別部落、客家、ムスリム、ユダヤ人たちと「革の道」』(解放出版社)ほか。

と き 11月29日(水)夜7時～9時
ところ 公民館 3階講座室
定 員 会場受講:30名、オンライン受講:30名
※いずれも申込先着順

申込先 11月7日(火)朝9時～26日(日)夕5時
公民館 ☎ (572) 5141

電話、または右QRコードより
お申し込みください。



※オンライン受講の方法は前日までにメールでご案内します。当日、参加者側の環境による接続や音声の不備についての問合せには対応できませんので、予めご了承ください。

〈多文化共生事業〉



アイヌ民族の世界観と暮らし



講師 本田 優子(札幌大学)

アイヌ文化研究のため、アイヌ文化の伝承者・萱野茂さんを頼って北海道平取町二風谷にやってきた本田さん。1年間の滞在のはずが、アイヌ語辞典編纂作業や子ども達へのアイヌ語塾の先生をしながら、アイヌ文化が暮らしの中に息づく二風谷で過ごす中で、多様なアイヌの世界観に触れ、二風谷永住を決意しました。

アイヌの教えでは、例えば、本田さんの子どもが部屋で走り回って物にぶつかり泣いていたなら、「泣くのではなく、その物の神様も痛がっているからそちらをなでてあげなさい」と言われたそうです。後に本田さんは、ぶつかったときは自分だけでなく相手も痛いということを教えられたことに気がついたと言います。

研究を超えて一人の隣人として二風谷で暮らした本田さんから、アイヌ文化の世界観や知恵、関わってきた友人や教え子達の思いに触れたことなど、これまで感じてきたことについてお話いただきます。

〈本田さんのプロフィール〉

1957年金沢市生まれ。北海道大学卒業後、二風谷に移り住む。専門分野は、アイヌ文化、アイヌ史、アイヌ語。著書・著作に、『伝承から探るアイヌの歴史』編(札幌大学附属総合研究所)、『アイヌのクマ送りの世界』共編著(同成社)、『二つの風の谷—アイヌコタンでの日々—』(筑摩書房)ほか。

と き 12月16日(土)昼2時～4時
ところ 公民館 地下ホール 定 員 60名(申込先着順)
申込先 11月8日(水)朝9時～ ☎ (572) 5141

公民館の緑化絵日記



▲みかん

今年もみかんが実をつけたり、キバナコスモスの花がきれいに咲きました。



公民館にお越しの際は、季節の変化をお楽しみください。



▲キバナコスモス

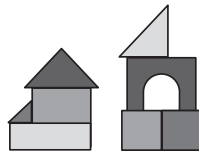
来年度、保育を希望するグループはお知らせください

子育て中であっても、一人の大人として仲間と学びあい、公民館で継続的に活動する時間を保障するため、公民館では保育室を設置しています。公民館保育室では、乳幼児をもつ保護者の学びを支えることと共に、子どもにとっても育ちの時間となるよう、保育者と子どもとの関係づくりを大事にしています。限られた設備・体制のなかで、保育者・子どもとも、同じ曜日に同じメンバーで継続して通うことで、子どもと保育者との信頼関係を醸成し、子どもの豊かな社会生活、成長の場となることを目指して保育室を運営しています。

公民館で活動している市民グループに継続的に参加する場合に限り、活動時間中に公民館保育室で保育を行います。来年度(2024年4月～)保育を希望するグループ、考えているグループは1月末までに公民館へご相談ください。

〈開室時間〉

火曜日～金曜日 午前10時～12時
午後2時～4時
土曜日 午前10時～12時



〈要件〉

国立市内在住の学齢前の子ども。毎週火曜日、毎週水曜日というように定期的に通えること。
*詳細は公民館へお問い合わせください。
公民館 ☎ (572) 5141

〈くにたちブッククラブ 記憶の欠片をひろい集めて〉 今村夏子『むらさきのスカートの女』 (朝日文庫)

講師 佐藤 泉 (青山学院大学・日本近代文学)

とき 11月9日(木)夜7時半～9時半

ところ 公民館 地下ホール

定員 30名(申込先着順)

申込先 公民館 ☎ (572) 5141

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

くにたち デジタルブック

QR
コード




過去の公民館だよりをご覧になりたい方は、『くにたちデジタルブック』もご活用ください。

国立市デジタルライブラリー

検索

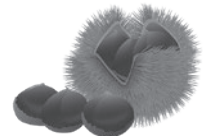
ー1月分(ロビー2月分)

会場調整会のお知らせー

| | |
|----------------------------------|---|
| 申込書のポスト投入期間 | 11月4日(土)～23日(木) |
| 公用使用の貼り出し | 11月10日(金)頃 |
| 予約の重なりのある団体の掲示開始日 (国立市HPにも掲載) | 11月25日(土) ▶重なり状況  |
| 会場調整会 | 12月2日(土)朝10時～ |

- ・予約の重なりのある、なしに関わらず、電話による連絡はいたしません。(ご不明な点は、公民館へお問い合わせください。)
- ・会場調整会へは、予約の重なりのある団体が、第1希望の会場がとれなかった場合の別の候補日も想定して、活動日を決定できる方1名がご参加ください。
公民館 ☎ (572) 5141

会場調整会は朝10時までに受付を済ませてください。



第68回 くにたち市民文化祭

11月26日(日)まで開催中!!

10月17日(火)より第68回くにたち市民文化祭が開催中です。11月も個性豊かな催しが数多く企画されていますので、ぜひお越しください。



10月21日(土)まで開催した参加グループ紹介展示の様子
展示は文化祭終了まで公民館階級の壁面に掲示しています

文化祭パンフレットは市内各施設での配布のほか、右QRコードからもダウンロードできます。

| 開催日 | 催し物 |
|---------------------|---|
| 11月10日(金)～11月12日(日) | 第52回国立市書道展 |
| 11月10日(金) | 国立あひるグループ公開レッスン |
| 11月11日(土) | シンポジウム 「自己教育・相互教育の場としての公民館」一国立市公民館の成果を継承するために |
| 11月12日(日) | フルーツアンサンブル『桜音の会』コンサート |
| 11月14日(火)～11月19日(日) | 第50回くにたち絵画グループ展 |
| 11月18日(土)～11月19日(日) | (伝統文化の広場)合同いけ花展 |
| 11月18日(土) | かのご着物がたり—Kanokoの軌跡— |
| 11月19日(日) | 戦争を止め、平和をつくる力を!!『原爆で全滅した広島一中一年生・父母の手記集』最後の一篇 |
| 11月22日(水) | グリーンコーラス 公開レッスン |
| 11月23日(木・祝) | (伝統文化の広場)第43回市民茶会 |
| 11月24日(金) | こぎつねの会 朗読会 |
| 11月25日(土) | くにたち話し方勉強会公開レッスン |
| 11月26日(日) | 楽しいきもの体験 |
| 11月26日(日) | くにたち国際友好会 WING による国際理解講座 |
| 11月26日(日) | ガムラン演奏会とワークショップ |

公民館の Q & A

このコーナーでは、公民館についての疑問に答えます。今回は、「公民館運営審議会」についてです。

- Q1. 公民館運営審議会(以下、公運審と表記)の役割はなんですか?
- A. ●公民館は、市民主体の学び、相互に学びあう活動を奨励・支援する社会教育施設です。ゆえに公民館は、そこで学ぶ当事者や多様な市民の意向を適切に反映して運営することが求められています。
●公民館では各地域の実情に応じて、その地域の課題や住民の学習ニーズを公民館運営に活かすため、公運審を設置して市民を代表する委員と公民館長・職員が定期的に議論する場を設けています。
- Q2. 国立市の公運審の委員は、どんな人たちによって構成されていますか?
- A. ●国立市の公運審は15名の委員が、2年間の任期で委嘱されています(最大3期まで継続可)。15名のうち、11名が公民館で活動するサークルや市民活動団体などからの推薦、2名が学識経験者、残り2名が学校教育関係者や家庭教育関係者の立場で推薦された方によって構成されています。
●委員15名は、毎月第二火曜日夜7時15分から開催する定例会のほか、正副委員長などいくつかの会務を分担し、時には別途会合なども持ちながら、公民館の運営や事業について積極的な審議活動を推進しています。
- Q3. 現在の公運審は、どんな活動をしているのですか?
- A. ●公民館を規定する「社会教育法」の第二十九条の2では、公運審は「館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する」とされています。

●現在の第34期の公運審は、2022年11月に任期がスタートし、2023年6月に館長より諮問「公民館の運営や事業に「市民の声」を活かしていくための方法や工夫について」が出されました。現在、委員一同、同諮問に対し、どのような答申を作成するのか、議論を重ねています。
●毎月の定例会の議事概要を、毎号の公民館だよりで委員自身が執筆して紹介するほか(下の記事参照)、公民館図書室で議事録が閲覧できます。また、どなたでも定例会を傍聴することができます。お気軽にお越しください。

公民館運営審議会報告

10月10日(火)第34期第12回定例会を開催。委員14名、館長・職員3名出席。傍聴人3名。

前回事務録確認
議事録の修正あり。今後、修正前議事録は当日配布せず、事前のメール送付のみとし、修正後定例会で配布の方向へ変更。

報告事項
●公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会、社会教育学習会の報告。10月14日(土)開催の東京都公民館連絡協議会委員部会研修の最終案内と参加予定者確認。

審議事項
○人事要覧案について
正・副委員長提案の要覧案について意見交換。従来の要覧案に加えて

11月20日(月)実施の公民館職員研修で矢川プラスを見学予定。希望する委員は参加可能。

○次回定例会は11月14日(火)夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。(幸島)

え、ハイブリッド講座等に対応する職員に関する要望の要否について協議。
○諮問「公民館の運営や事業に「市民の声」を活かしていくための方法や工夫について」
前回事務録の意見をもとに諮問の背景、理由等を館長から再度説明。また、委員による諮問への意見アイデアを分類整理したものを委員長等から説明。「市民の声」の市民とは誰か、公民館未利用者や学びを必要とする市民、その課題等について意見交換。継続審議に。

ひまわり



楽しく歌おう「ひまわりの会」

指導の先生はピアノリストで、表現豊かな演奏で参加者を曲の世界へ引き込み、また歌の楽しさを感じさせてくれます。童謡、唱歌、日本や世界の名曲を歌います。

日時 第2、4水曜 朝10時
場所 北市民プラザ多目的ホール
連絡先 新里(57) 1062



躍動(くにたち天下市)

撮影 和賀 一
(フォトサークルくにたち)

くにたち囲碁クラブ会員募集

囲碁を愛好する会員相互の親睦及び棋力向上を目的に活動。会員資格は福祉会館内の「なごみ」に登録した市内在住の60歳以上の方。年会費2千400円。

日時 火祝日を除く毎日昼1時
場所 福祉会館 2階娛樂室
連絡先 増川090(6104) 3450

和弓をひいてみませんか!

和弓は姿勢を良くし、集中力を養い誰にでもできるスポーツです。初めての方でも最初は会の用具を使えます。会費一回500円詳細は夜六時以降電話を。くにたち弓友会

日時 週一回(日)又は(土)の午前中
場所 昭島市弓道場(東中神社)
連絡先 長谷川(576) 1489

フットサルチーム「ソラーナ」

市内で活動中の男女エンジョイサークルです。10〜60代まで幅広い年代で毎週汗を流しています。熟練指導者によるサポート有り。気軽に体験でもご連絡ください。

日時 毎週日曜日 昼3時〜6時
場所 市内小学校体育館
連絡先 磯080(3258) 6711

文化祭シンポジウム「自己教育・相互教育の場としての公民館」

国立市公民館の歩みをこれから生かすために。報告・長澤成次、荒井敏行、中島三恵子、家坂平人

企画 公民館をまもる会
日時 11月11日(土) 昼1時半
場所 公民館 地下ホール
連絡先 田島(576) 4015

第四十二回 北文化祭のご案内

作品展: 絵画、写真、書道、彫刻、陶芸、手工芸品など 模擬店・古本市・花市・美味しいものや掘り出し物がいっぱい。※食品の販売は18日(土)に限りです。

日時 11月17日(金)〜19日(日)
場所 北福祉会館
連絡先 緑川080(6679) 3948

「あつぎ」地域のこども

健康体操ワーカーズ KENT Aの指導で日頃の生活に役立つ体操を行います。その後、皆で大きな声を出して歌いましょう。どなたも気軽に来てください。無料

日時 11月26日(日) 朝10時〜12時
場所 矢川プラス多目的ルーム(大)
連絡先 NPOすてつき(576) 3206

「サークル訪問」に載せてほしいサークル募集!

「サークル訪問」は、公民館だより編集研究委員会の委員が市内で活動するサークルに伺って取材し、公民館だよりへ記事を掲載するコーナーです。活動内容の紹介や、メンバー募集を希望するサークルのみならず、ぜひご連絡ください。
(お問合せ先) 公民館 ☎ (572) 5141

「サークル訪問385」のぞみる(つづく)

「朗読」というと表現力豊かに読み方を学ぶというイメージがあるが、この会は少し違う。

やることは「自分の読みたいものを大きく声に出して読む」だけ。ただし学習する場ではないので、講義はしないことが条件という。

メンバーは発起人の溝口幸三さんと香月茂さん、大澤茂一さん。仕事で頑張ってきた人たちが退職後に家族以外に話す人がいなくなったり、閉じこもりがちになるのを目の当たりにして、声を出すのが一番いいと2年前に発足した。

この日は大澤さんがブックレット「検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?」(岩波書店)の反響を扱った新聞記事を読み上げた。「どのような問題も最初から否定するのは議論が止まっちゃうよね」などと感想を言い合う。

最近盛り上がったのは香月さんが取り上げた「配偶者をどう呼ぶか」という新聞記事。この時はアメリカからのZoom参加もあり、日本との文化の違いなど話が尽きなかったそうだ。溝口さんが紹介したのは、ハーバード大で米菓の「柿の種」が教材に使われたというネットの記事。いずれも10分ぐ

らいまで、取り上げる題材は童話などもあり、本当に自由だ。会の概要を説明した紙を見ると「老読」と「老」の字が。「深い呼吸でゆっくり読む(唸つたり変な節はつけない)、口を大きく動かし表情豊かに(他人の面相は気にしない)」などと書かれており、思わず笑ってしまふ。最後には「老境の男たちの孤独や悩みなどをふつふつと毒出し……」とあるが、「老毒会」と書くところが、ついでに、会の名前はひらがなに「と溝口さんは笑う。

高年齢の男性限定という訳ではないが、最近、人と声を出して会話をしていないと思いがちの方、ぜひご参加を。

日時 月1回、原則火曜 朝10時〜12時
場所 公民館
連絡先 溝口090(4068) 3652
nizolinguat@msn.com
〈文・写真 西尾 万樹〉



おやじギャグも飛び交う楽しい時間を一緒に! 右から溝口さん、香月さん、大澤さん